

三田市クリーンセンターの老朽対策と新ごみ処理施設の計画について!

質問
趣旨

三田市クリーンセンターは稼働してから30年が経過し、その間、大規模な修繕やごみ減量化計画等を策定し、施設を延命改修して10年が経過しようとしています。しかし、昨年ごみピットにある2号クレーンガータの一部に亀裂が見つかり、12月の補正予算で緊急補強工事と新しいクレーンガータの交換経費を計上し、1号クレーンガータについても、同様の状態になることが予測されることから、早期に新しいクレーンガータへの更新が望まれるところですが、いつ頃を予定しているのか、またその他施設の老朽化についても聞く。

市の
答弁

クレーンガータの交換完了時期は11月末、老朽化は、施設の重要な設備であるごみ焼却制御システムの更新、焼却炉本体やガス冷却塔の耐火壁の修繕等、また新施設の計画は、地球温暖化防止にも寄与する施設でエネルギーの地産地消を進め、温室効果ガスを削減することで、ゼロカーボンシティ実現に向けた新たなエネルギーと脱炭素社会に対応する機能を有すること。



2点目に災害時においても、ごみ焼却を継続し、熱回収によりエネルギーを供給し続けることができる防災機能を併せ持つ施設であること、3点目にごみ処理からエネルギー再生までの工程の見える化により、環境教育、学習機能を有し、周辺環境にも調和した市民に親しまれる施設であること。

力セットボンベ等、スプレー缶の収集方法について!

質問
趣旨

近年ではスプレー缶の穴開けが不十分であったことにより、パッカー車の中でスプレー缶が発火、爆発し、火災事故を引き起こす原因となっています。幸いにも大きな事故にはなっておりませんが、いつ大きな事故が発生してもおかしくない状況です。

高齢者にも優しい
処理方法を!!

環境省では2009年以降、スプレー缶の穴開けをせず収集することが望ましい旨、各自治体に周知しており、2015年、2018年いずれも札幌市で発生した火災事故を契機として、穴を開けない収集方法が全国的に広まっています。

近隣でも、宝塚市、川西市、伊丹市、西宮市、芦屋市、神戸市は完全にガスを抜き取ることを丁寧に市民に説明し、現在、三田市が穴開け収集しています。市民の安全・安心や、高齢者に対する配慮等が足りないと感じますし、収集時に大きな事故発生のリスクもあると思いますが、今後の方針について聞く。

市の
答弁

市内で約1,000のため池のうち、防災重点ため池が300程ある。利用されないため池に関しては、防災の観点から見て、廃止も進めていきたい。農会や水利組合と相談しながら協議していく。防火用水としてため池を改修して残していくなければならない面もある。幸田議員、ご提案の余水吐けを下げることも一つの方向性としてあると考えます。

ため池の管理!

質問
趣旨

農区などが管理する農業用ため池が堤体や樋の老朽で決壊するおそれがあり、人家などに影響が出る場合、市はどういった対策を講じていくのかを伺う。ため池の満水状態を防ぐため、余水吐けを切り込んで下げる、水位も下がるが、市はどのように考えるのか。廃止も含めて伺う。



幸田やすし



三田市西山2丁目 電話090-8884-4879

01
開発

三田駅前Cブロック地区再開発事業 完成イメージ案

三田駅前地区は、JR・神戸電鉄「三田」駅の南側に位置し、中心商業地として発展してきたことから、都市拠点区域に位置づけられ、昭和58年に市が三田駅前再開発構想を定め、三田駅前地区の約5haをAからDの4ブロックに区分し、すでにA、B、Dブロック地区が事業完了しています。

その中に位置するCブロック地区は、老朽化した中低層建築物の密集と空閑地の混在する状況を解消し、期待される新たな都市機能の集積、活力や魅力を創出する都市空間の形成などが求められています。Cブロック地区は、三田駅前の集大成の再開発事業であり、平成27年6月に準備組合を設立して以来、市街地再開発事業の実現に向けて、地権者

の合意形成に努めており、その結果、令和2年3月に都市計画決定が告示され、現在、令和3年12月18日に本組合を設立し、事業を進めています。

現在約540戸のマンション計画（事業協力者、阪急阪神不動産・旭化成レジデンス）（建設系事業協力者・熊谷組）とし、仮称・にぎわい広場や都市計画道路駅前線の30mのシンボルロードの整備、三田駅2階部分から直接入る商業施設、医療施設や店舗、マンション等を計画中（1F部分も店舗やスーパーを計画中）。

私は公共・公益施設（市の図書館や子どもから大人の多世代が交流、活躍できる施設等）を要望します。財政状況も厳しい時代ではありますが、三田市と三田駅前の顔として「にぎわいとうるおい」のある街づくりに取り組んでおり、市民の皆様に「愛着と誇り」を持っていただけるような街づくりを現在進めています。

02
コロナ

新型コロナワクチン!

質問
趣旨

ワクチンを打たない人のフォローは市としてどうようにして対応していくのか。

市の
答弁

地域包括支援センター・高齢者支援センターなどの関係機関や民生委員、老人クラブ、シルバー人材センターなどの関係者・関係団体を通じて、65歳以上の高齢者全体に対して、改めてワクチン接種を受けて頂くよう働きかけをする。

質問
趣旨

ワクチン接種後の待機時間に、副反応で体調の具合を訴える人がおられたのか、その後の経過や対応について。

市の
答弁

接種後の待機場所に看護師を配置し、会場内の救護室にて医師、看護師による診察、看護する体制を整えている。なお救護室には、アナフィラキシーの発症に備えた薬剤等、救護措置に必要な物品を常備するとともに、救急搬送に備え消防署に救急車が常時待機している。11月20日現在では676人（不定愁訴・アレルギー症状・迷走神経反射・予防目的等、救急要請者4人）

03
行政

マイナンバーカード!

質問
趣旨

①マイナンバーカードの今後の利用や利便性について。
②1Fの申請窓口について伺う。

市の
答弁

利便性の高いデジタル社会へ

- ①10月からの保険証の一体利用の予定。
- ②現在カード申請率が兵庫県下3位ですが、今後も1階の申請サポートコーナー交付・申請率を上げるために統合していく予定。



マイナンバーカードのご案内です

07

道路

三田市の都市計画道路の計画はどのようにになっているのか!

未整備の三輪下田中線の今後の計画について!

質問
趣旨

道路は、都市防災機能として災害時の避難路・救援路・輸送路としての役割等様々な機能があり、都市の基盤施設や、まちづくりの方向性を決める重要な部分を担っています。

三田駅周辺の都市計画道路は三田駅前再開発事業が完成して行くと共に駅前1号線が完了し、駅前線、駅前2号線、駅前3号線の未完了区間についても、三田駅前Cブロック地区再開発事業の進捗に合わせて整備が図られる事となっています。

しかし三田駅前再開発地区のすぐ南側の市道三輪下田中線は、昭和48年に計画決定されており、もうすぐ50年になりますが、何も進捗が見られません。今後の計画について聞く。

市道横山天神線の三田幹線までの延伸について伺う!

質問
趣旨

天神・西山土地区画整理事業が完了したことにより、2地区の地域の中を通る横山天神線も徐々に延伸してきました。最近は自転車レーンも整備され、市民に安全な通行が確保されている所です。**しかし道路ができたことで利便性が増し、休日や時間帯によって、交通量が多く、三田幼稚園あたりまでの渋滞が発生します。**

現在鳴ヶ谷京口線、南が丘まで延伸していましたが、三田幹線まで延伸することにより幼稚園、小・中・高生、市民に安全な通行や自動車の渋滞も緩和されます。

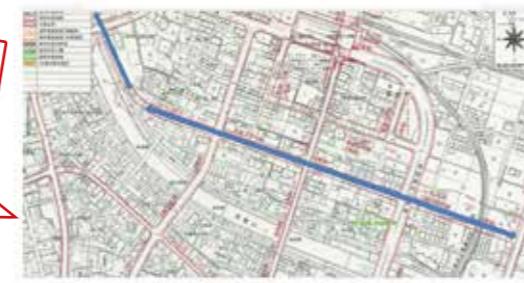
天神・西山地区等から神戸電鉄横山駅までのアクセスも良くなり**幹線までの280mを延伸する事によって安全面、利便性にも大きな効果が期待できると思いますが、市の考えを聞く。**

市の
答弁

三輪下田中線は、延長960m、幅員16m道路として昭和48年に都市計画決定されました。市としては、三田駅前周辺の駅前再開発事業を最重要として推進しており、駅前線や駅前1号線、駅前2号線などの都市計画道路の整備を優先的に進める必要があったこと、また三輪下田中線が市街地内に位置することなどから、整備には多大な事業費が必要となることから、現在まで未整備となっています。

しかしながら、駅前再開発事業と相まって、当該路線の整備により、交通の利便性や防災機能の向上、土地利用などの効果が期待できると認識している。

昭和48年から進んでない計画道路
東西に走る道路がないことは疑問!



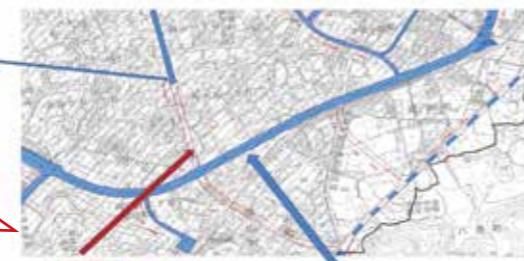
三輪下田中線 昭和48年～都市計画道路!

市の
答弁

市道横山天神線は、通学路に指定されている所から自転車レーンの整備をしています。通過交通などで渋滞が発生しております。

市として三田幹線までの整備を延伸することで通学児童の安全確保や渋滞緩和などに資すると共に、沿道土地利用の活性化など、課題に対する整備効果が期待できると考えています。着手期間を見定める必要があり、着手時期に関しては、現在市内で事業中の道路事業の進捗状況や完成時期等を見ながら、国庫補助事業等の導入の可能性も含め考えて行きたい。

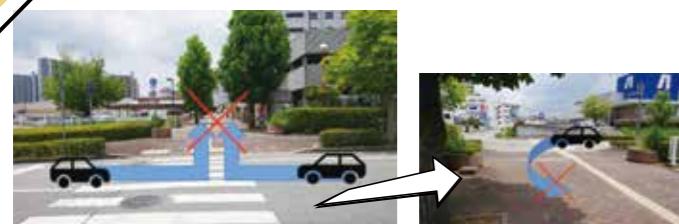
現在、鳴ヶ谷京口線、南が丘まで延伸しましたが、三田幹線まで延伸する事が安全安心な通行ができる、効果があると考えます。



市道横山天神線 都市計画道路図(昭和34年・計画決定)!

08
安心
安全

フラワータウン駅南の歩道の安全対策を要望・設置!



交差点での二輪車の減速等にも効果があると考えられる。



安全対策ラバーポールの設置
駐車場と間違え、車の進入があります。

09
病院

三田市民病院・市民の健康と命を守るために!!

今後の急性期・慢性期・回復期病院として地域医療を考えなければなりません

平成7年に開院した三田市民病院は、病床数300で三田市・丹波篠山市・神戸市北区の患者が主に受診(3地域が全体の約80%)24時間「断らない救急」を掲げ、救急車の受け入れ率も90%以上にのぼる。しかし、2015年に国の地域医療構想を受け、今後の三田・北神地域による急性期医療を維持することが困難と考えて、**三田・北神地域の急性期医療の確保に関する検討委員会がスタートしています。**



課題

- ①北神・三田地域による急性期医療の機能維持 (さらに高度な医療提供で今後の急性期医療を地域で完結するため)
- ②医師の確保 (高齢者が増えるのに医師不足・専門性の高い医師確保、高度な医療提供・若手医師の確保、医師の働き方改革)
- ③設備施設の老朽化 (築年数30年、施設・設備の老朽化が進んでいる・仮棟の建設・患者の移動も課題)

地域医療構想

地域医療構想は、将来人口推計をもとに2025年に必要となる病床数(病床の必要量)を4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組みです。



三田市民病院は300床、すべてが急性期機能です

兵庫県下の再編統合の実例と予定

実施時期	統合病院 病院名	病床数	統合前病院 病院名	病床数
H25.10 (2013)	北播磨総合医療センター	450床	三木市民病院 (H24) 小野市民病院 (H24)	323床 220床
H27.7 (2015)	兵庫県立尼崎総合医療センター	730床	兵庫県立尼崎病院 (H26) 兵庫県立塚口病院 (H26)	500床 400床
H28.7 (2016)	加古川中央市民病院	600床	加古川市民病院 (H27) 神鋼加古川病院 (H27)	405床 198床
R1.7. (2019)	県立丹波医療センター	320床	兵庫県立柏原病院 (H30) 柏原赤十字病院 (H30)	303床 99床
令和4年 (2022)	川西市立総合医療センター	405床	市立川西病院 医療法人協和会協立病院	250床 313床
令和4年 (2022)	県立はりま姫路総合医療センター	736床	兵庫県立姫路循環器病センター 製鉄記念広畑病院	330床 392床
2025年 (予定)	名称未定 (アサヒビール跡地)	552床	兵庫県立西宮病院 西宮市立中央病院	400床 257床
2025年 (予定)	名称未定 (市立伊丹病院跡地)	602床	市立伊丹病院 近畿中央病院	414床 445床



保護猫と
里親を繋ぐ…

10
地域猫活動助成

地域猫活動にご理解・ご協力をお願い致します!!!

TNRとは?

「三田市ねこの連絡協議会とは」 三田市役所の呼びかけで、市内ボランティア団体で協議会を作り、飼い主のいない猫の問題を市役所と協働で考えていくことになりました。飼い主のいない猫の問題は、地域の環境問題です。「三田市の取組」 飼い主のいない猫を減らす取組を行っています。飼い主のいない猫を保護し、不妊手術後に元の場所に戻します。



不妊去勢手術の助成について三田市は令和3年度より予算化しています。

(※この市政活動レポートは、政務活動費で作成しています)